

令和元年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

第7号 令和元年7月25日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/



- ・ 移植栽培：中生品種は減数分裂期に入っています。
- ・ 直播栽培：幼穂形成期に入ってきています。
- ・ いもち病の発生に注意しましょう。

1 気象経過

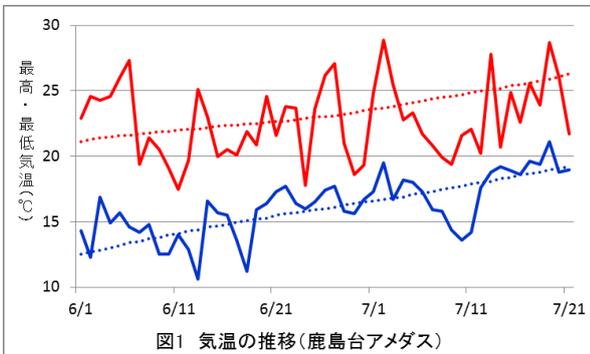


表1 月別の気象データ(鹿島台アメダス)

	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	今年	平年差	今年	平年比	今年	平年比
6月	18.4	0.3	179.5	145%	155.2	110%
7月 第1半旬	21.1	1.2	28.0	93%	24.9	130%
第2半旬	17.9	-2.6	0.5	2%	3.3	18%
第3半旬	20.1	-1.0	31.0	102%	16.0	88%
第4半旬	21.9	0.1	7.5	28%	13.7	70%

2 管内生育調査ほの生育概況

表2 調査結果(移植栽培)

調査地点	品種	栽植密度(株/㎡)	区分	田植日	7月10日調査結果					7月20日調査結果					
					草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)	幼穂長(mm)	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)	幼穂長(mm)	
涌谷(小谷地)	ひとめぼれ	18.7	本年値	5月12日	56.6	546	11.0	45.3	0.4	78.0	527	12.5	43.8	29.0	
				前年比・差	1日早い	87%	105%	-0.2	103%	0.3	100%	101%	0.0	116%	0.3
				4ヶ年平均比・差	±0日	90%	96%	-0.1	108%	-1.3	106%	96%	0.2	115%	-1.3
田尻(桜田高野)	ひとめぼれ	15.7	本年値	5月12日	58.9	471	11.2	45.8	0.4	67.3	451	11.9	43.3	28.0	
				前年比・差	1日早い	90%	95%	0.2	104%	0.3	86%	91%	-0.1	118%	0.3
				2ヶ年平均比・差	1日早い	91%	92%	0.0	105%	-0.1	86%	91%	-0.4	119%	-0.1
鹿島台(木間塚)	ササニシキ	17.3	本年値	5月14日	59.2	704	12.1	38.6	1.0	67.2	630	12.9	35.8	20.7	
				前年比・差	2日早い	94%	121%	1.0	92%	0.1	88%	115%	0.5	99%	0.1
				平年比・差	1日早い	96%	110%	1.0	107%	-0.9	93%	109%	0.5	107%	-0.9
鹿島台(木間塚)	だて正夢	21.2	本年値	5月13日	66.7	581	11.6	45.7	0.0	75.3	522	12.5	44.7	8.0	
				前年比・差	1日遅い	96%	156%	0.3	104%	-1.2	93%	161%	-0.1	119%	-1.2
				2ヶ年平均比・差	1日遅い	103%	125%	0.9	109%	-1.2	98%	127%	0.6	121%	-1.2
南郷(和多田沼)	金のいぶき	16.3	本年値	5月3日	61.5	551	11.2	40.8	0.4	68.4	523	11.9	37.9	8.2	

※平年値は過去5年間の平均値。過去平均は5年未満の平均値。

※金のいぶきは、調査1年目のため前年値・平年値なし。

表3 調査結果(直播栽培)

調査地点	品種	栽培様式	播種日	播種量(kg/10a)	7月10日調査結果				7月20日調査結果			
					草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(枚)	葉色(SPAD値)
小牛田(荻塚)	萌えみのり	鉄コーティング温水直播	5月13日	3.7	44.9	434.3	8.7	45.8	52.4	648.6	9.6	46.3

※直播萌えみのりは、調査1年目のため前年値・平年値なし。

- 草丈：涌谷ひとめぼれ以外は平年より短い
- 茎数：ひとめぼれは平年より少ない
- 葉数：ひとめぼれは平年並かやや少ない
- 葉色：全品種で平年より濃い
- 幼穂長：平年並～短い 伸長が緩慢になっている

3 今後の管理

(1) 出穂期の予測

◇管内の田植盛期は5月10日でした。

中生品種の平均的な出穂期は、8月5日～8月8日頃と予想されます。

表4 生育ステージの予測値（7月25日現在）

移植日	出穂期
5月1日	8/2～8/4
5月5日	8/3～8/6
5月10日	8/5～8/8
5月15日	8/7～8/9
5月20日	8/9～8/12
5月25日	8/12～8/15
5月30日	8/16～8/19

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。平均気温は7月24日までは鹿島台アメダスの実測値，7月25日以降は鹿島台アメダスの平年値。

(2) 水管理

○出穂後の水管理

登熟後期まで根の活力を維持するため、出穂後は間断かん水を行いましょう。

※出穂後25日頃には玄米千粒重の80%以上が確保されますが、高品質・良食味とするため、落水は出穂後30日以降に行いましょう。

○高温時の水管理

高温時には、掛流しかんがいが最も有効です。前提条件は、①気温よりも温度の低い用水が確保できること、②10a当たり毎分200～300ℓ程度の用水流入量を確保できることです。

また、湛水することなく、走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理や用水温の変動幅が小さいことを利用した昼間深水（午前9時～10時にかん水）・夜間落水（午後4時頃に落水）も効果があります。

(3) 病害虫防除（発生量などの情報は、宮城県病害虫防除所発生予察情報（7/19発表）より）

1) いもち病 穂いもち生時期：平年並（発生初期8月第4半旬），発生量：平年並

アメダス資料による感染好適日の推定では、7月19日と23日に広域的に感染好適条件が出現しています。

病害虫防除所の巡回調査（7/22～23）の結果、葉いもちの発生地点率は3.5%で平年並の状況であり、県内各地で発生が確認されています。管内でも一部で初期病斑が確認されています。

穂いもちの予防防除を行った場合でも、ほ場を入念に見回り、葉いもちの発生が確認された場合、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょう。

穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょう。

粉剤や液剤などの茎葉散布剤による穂いもちの防除は、1回目の防除を出穂直前に、2回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちの多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には3回目を穂揃期の7～10日後に実施しましょう。

2) 斑点米カメムシ類（アカスジ）

発生時期：平年並（水田侵入始期8月第1半旬），発生量：平年並

○基本の薬剤防除 ※薬剤は畦畔も含めて散布しましょう。

1回目：穂揃期 → 2回目：穂揃期の7～10日後

○イヌホタルイ発生水田の場合

1回目：出穂始～穂揃期 → 2回目：穂揃期の7～10日後

3) イネツトムシ (イチモンジセセリ)

直播栽培など一般ほ場より生育ステージが遅く、葉色が濃いと被害が大きい傾向があります。

○防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期 (7月下旬～8月上旬)

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

※若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意しましょう！

気がついた時には、殺虫剤の効果が出にくい中齢～老齢幼虫になっており、防除適期を逃してしまうので、現場の発生状況を見ながら適期に防除を行いましょう。

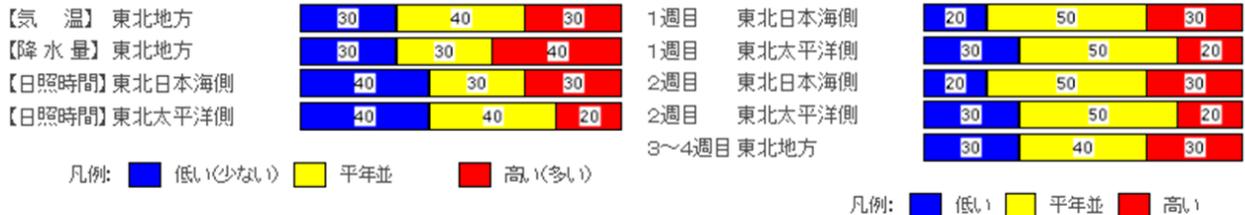


4 今後の気象

東北地方 1ヶ月予報 (7月18日発表, 7月20日～8月19日まで)

東北太平洋側では、期間の前半は日照時間が少ない状態が続く見込み

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)> <気温経過の各階級の確率(%)>



2週間気温予報

府県 表示
 | |

2019年7月25日11時更新

印刷

